

2025 年度 第 4 回 藤沢市立鵠洋小学校 学校運営協議会会議録

日時：2025 年 12 月 12 日 午前 10 時～午後 12 時

場所：鵠洋小学校 会議室

河村 満	会長／鵠沼ふれあいトライアングル 代表
亀本 淳夫	副会長／鵠洋小学校 校長
徳永 理加	鵠沼南地区民生委員児童委員協議会 主任児童委員
寺田 言子	鵠沼地区青少年育成協議会
吉田 正彦	学識経験者（元鵠洋小学校校長）
浪川 征子	どろんこ児童クラブ 代表
山口 秀俊	鵠沼市民センター センター長
庄司 薫	KFP（鵠沼ファザーズパトロール）代表
後藤 洋平	鵠洋小学校学校運営協議会 コーディネーター

出席委員：9 名

欠席委員：4 名（坂田千鶴代、齋藤香乃野村田鶴子、植松梢、駒場亜以、奥濱佳那）

議事

1) 学校の近況と今後の学校支援

- 感染症の状況
 - 子どもたちのインフルエンザは少し落ち着いてきているが、職員やその家族の体調不良による欠勤が増えている。
 - 本来の流行期は 1 月、2 月とされているため、引き続き感染症対策を進めていく。
- 行事の延期と見守り協力への感謝
 - 先月、1 年生と 4 年生の遠足が学級閉鎖により延期となった。
 - KFP や民生委員の方々には、見守りの予定を変更してもらうことになり、申し訳なく思っている。

- 今週は延期された行事が集中し、3年生の市内めぐりも重なったが、多くの方に見守り協力をいただき、無事に行事を終えることができた。
- **避難訓練の実施報告**
 - 先月 6 日に実施した避難訓練への協力に感謝。
訓練の詳細は、「学校だより 12 月号」に記載。
- **12 月の行事**
 - 来週、6 年生が東京へ見学に行く予定。KFP のメンバーを中心に、行き帰りの見守り支援を依頼。
- **1 月の行事**
 - 1 月 22 日に 3 年生が新林公園へ行く行事が追加された。
3 年生は 7 クラスあり教員も多いため、見守り支援は無理のない範囲でお願いしたい。
- **2 月の行事**
 - **5 年生の工場見学:** 5 年生（7 クラス）がいすゞ自動車工場へ見学に行く。人数が多いため、3 日、5 日、6 日の 3 回に分けて実施する。本鵜沼駅までの見守り支援を KFP にお願いしたい。
 - **1 年生祭り:** 2 月 5 日の午前中に体育館で開催される。支援依頼ではないが、見学は歓迎。
 - **6 年生の卒業旅行:** 2 月 13 日によみうりランドへ行く予定。バス行事が続いたため、今回は電車での移動を計画している。
- **卒業式への来賓参加**
 - 今年度の卒業式には、学校運営協議会委員も来賓として席を設けたい。
参加希望者は、席を準備するため、年内に連絡をいただきたい。
- **新 1 年生のクラス編成**
 - 現時点での新 1 年生の人数は 172 名であり、クラス数が 5 クラスになるか 6 クラスになるか、非常に悩ましい状況。
- **学校支援サポートの是非**
 - 過去、家庭科の調理実習などで、在校生の保護者がサポートに入った際に、自分の子供だけを見る、学校内の情報が不正確に広まるなどの問題が発生した。
そのため、当該学年の保護者はサポートに入らないようにするという経緯があるが、明文化されたルールではない。
一方で、鎌倉めぐりなどの遠足では、教員だけでは人手が足りないため、以前から当該学年の保護者の協力を得ている。
6 年生の卒業遠足についても、保護者の応援をいただくことを検討中。基本的には、その都度の状況に応じて判断していく方針。

6 年生お別れ遠足の移動手段に関する懸念

- 移動計画
 - よみうりランドへは電車で移動する計画。小田急線「よみうりランド前」駅で下車し、そこから徒歩で向かう。
- 提起された課題
 - 6 クラス約 200 人の生徒を電車で引率するのは大変ではないかとの懸念が示された。
乗り換え（藤沢駅など）や、目的地の駅が狭いことによる誘導の難しさが指摘された。
駅からよみうりランドまでの坂道は距離があり（徒歩 30 分程度はかかりそう）、子どもたちの足で集団移動するのは大変だという意見が出た。
- 教育的意義
 - 一方で、電車移動は公共交通機関でのマナーや、席を譲り合うなどの社会性を育む良い機会であるという意見も出された。

2) 防災教育の新たな取り組みと災害経験の共有

- これまでの防災教育の課題
 - 学校運営協議会としての防災教育は、防災訓練の実施にとどまっており、もう一歩進んだ取り組みができないかと考えている。
 - 校長が 4 年生の一クラスで防災に関する授業を行ったところ、生徒の反響が良く、防災館に足を運ぶ生徒もいた。
全体を集めて話をするよりも、クラス単位での対話の方が生徒に響くという手応えを感じている。
- 運営協議会メンバーによる出前授業の提案
 - 来年度、社会科で防災を扱う 4 年生を対象に、運営協議会メンバーが各クラスに分かれて防災に関する授業を行うことを提案したい。
来年度の 4 年生は 6 または 7 クラスになる可能性があるため、メンバーが各クラスで自身の経験などを直接話す時間を作ってはどうかという考え。
 - 実施に向けて、来年度の会議で授業内容を検討し、10 月頃の実施を目指すスケジュールを想定している。
- メンバーの災害経験の共有
 - メンバーからは、阪神・淡路大震災（高槻市で震度 6～7 を経験）、東日本大震災（仙台でのボランティア活動）、ビルの爆破予

告による避難訓練など、様々な災害や防災に関する経験が共有された。

- 直下型地震の揺れは体験として全く異なることや、被災地の状況を目の当たりにすることで防災意識が深まることなどが語られた。
- これらの体験談は、生徒たちに響く内容になるのではないかと期待されている。
- 最近、子供の火の不始末や花火が原因とみられるボヤ騒ぎがあったことが報告された。火事も大きな災害につながるため、地震だけでなく火災への意識も重要であるとの意見が出された。
- ある委員は、阪神・淡路大震災での個人的な体験を共有した。祖母が被災し、自宅は無事だったものの、近隣住民を避難させて共同生活を送った末に亡くなったこと、そして被災地の惨状が戦後のようであったことが語られた。

- **実施形式の検討**

- 体育館で一斉に行うのではなく、クラス単位での実施が望ましいとの意見が出た。クラス単位の方が、生徒一人ひとりに内容が伝わりやすいと考えられているため。
- カードを使った「HUG 訓練」を学校版に応用し、授業中に様々な状況を提示して、生徒が自ら考え行動するケースワーク形式の訓練が提案された。

- **今後の進め方**

- 来年度 4 月の当初から授業時間を確保し、具体的なタイムテーブルを今後検討していくことが合意された。
- これまでの 2 年半の議論を経て、子どもたちへの教育を具体的に一歩進める良い機会であると認識されている。

- **津波警報時の課題**

- 先日のカムチャッカの津波警報の反省を踏まえ、沿岸の三地区で津波避難に関するワークショップが開催されている。
- 辻堂地区では、住民との意見交換を交えながら避難について考える取り組みが先行して行われた。
- 1 月 24 日の土曜日には、センターで津波浸水エリア内の町内会を対象に、市と住民と一緒に考えるケースワーク形式のワークショップが予定されている。避難所運営の役割分担と課題

- **「避難場所」と「避難所」の違い**

- 「指定緊急避難場所」は、災害発生時にまず命を守るための一時的な場所である。

「指定避難所」は、自宅に帰れない人が一定期間生活するために移行する場所であり、この段階で「ファーストミッションボックス」が使用される。

- この二つの役割の違いは市民や教員にも十分に周知されておらず、混乱を招く一因となっている。

- **災害発生時の学校の役割と負担**

- 災害発生直後、市の職員が到着するまでの間、避難場所となった学校の教員が避難者の対応をせざるを得ない状況がある。
- 本来、教員の役割ではない避難者対応が、人道的見地や公務員としての立場から求められるが、これが大きな負担となっている。
- 特に津波エリア内の学校では、教員自身の避難も必要な中で避難者が押し寄せ、対応が困難になるという課題が顕在化した。

- **今後の体制構築**

- 避難所に移行した後は、住民による自主運営が基本となり、そのために避難所運営委員会が存在する。
- 住民自身が「自助・共助」の意識を持ち、行政のサポートが整うまで自分たちで乗り切る必要があることを周知していく必要がある。
- 学校教員の負担軽減と役割の明確化について、市と教育委員会、校長会などでのすり合わせが急務であると認識されている。
- 災害発生時、教員は公務員としての職務意識から避難者対応にあたっているが、避難場所と避難所の違いが十分に理解されていないという課題がある。

- **避難所の開設と初期対応**

- 台風や大雨は予報があるため準備が可能だが、地震は予測が困難である。
- 地震発生直後は、校舎内よりもグラウンドのような広い場所の方が安全な場合がある。
- 大きな地震の後は津波が懸念されるため、人々は建物内に入りたがる傾向がある。

- **防災無線の改善**

- 現在の防災無線は、不安を煽るサイレンを繰り返す形式だが、今後は内容を工夫する検討が進められている。
- 具体的には、津波の予測される高さや到達時間などの具体的な情報を提供し、落ち着いた避難を促すアナウンスへの変更が考えられている。
- この改善により、浸水エリア外の住民が不必要に避難所に殺到し、本来避難が必要な人が利用できなくなる事態を防ぐ狙いがある。

- **防災意識の向上**

- 住民や教職員、子どもたちが日頃から災害時の行動について話し合い、意識を高めることが重要であると指摘された。
- 3.11 の際、遠足に来ていた保育園が小学校へ避難した事例が共有され、教員や地域住民が「もしかしたら」を想定して備えることの重要性が強調された。
- 教職員一人ひとりがその場の状況に応じて判断できる能力を身につける必要があり、そのためには更なる学習が求められる。

湘南学園との学校間交流

- 湘南学園の教員 5～6 名が、校内研究の一環として授業見学に訪れた。
 - 当初、学校の教員からは戸惑いの声もあったが、最終的には全クラスで授業が公開された。
 - 湘南学園側は、公立学校の授業が整然と行われていることに感銘を受け、学校に対するイメージが変わったと述べられた。
- 校長、教頭が湘南学園の研究授業を見学した。
 - 授業内容は防災をテーマにした総合的な学習で、各家庭の防災設備を発表させるなど、私立学校ならではのアプローチが見られた。

交通安全に関する報告と注意喚起

- 朝の「おはようボランティア」活動中、天沼の踏切で自動車と電動自転車の接触事故が目撃された。自動車がほぼ停止していたところに、自転車が突っ込む形で衝突したとの報告であった。
- この事例を受け、特に電動自転車の運転に注意が必要である点が共有された。
- 校門前で自転車を降りて通行する人が増えており、安全意識の向上が見られるとの報告もあった。

鵜洋小学校と鵜洋児童館の間の通行ルール

- 児童館へ通う児童が、学校敷地内の東門を通過して直接アクセスできるルートについて、地域住民から「なぜ門を開けているのか」という意見が寄せられた。
このルートは、児童クラブやランドセル来館を利用する児童の保護者から、安全で安心できると評価されている。

- 児童館側としては、登下校時の安全を確保するため、児童に「走らず気をつけて通るように」と声かけを徹底した上で、このルートの利用を継続したいとの意向。
- 対策として、児童館の門を半分ほど閉め、児童が飛び出さないように配慮するとのこと。

次回会議の予定

- 次回会議は 2026 年の 1 月 16 日に開催。
- 当日は学校評価を主の議題とし、評価アンケートの意見交換を行う予定。